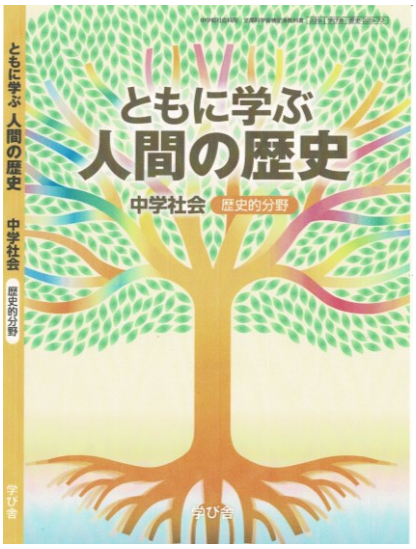
2025 年版教科書　学びの力を未来へつなぐ



新しい学び舎教科書を編集委員が語ります

髙嶋道・千葉保・鳥塚義和・楢崎由美
三橋広夫・安井俊夫(代表)・山田麗子(司会)

・山田

新しい教科書は３版になりますが、今まで一貫して子どもが主体的に学ぶ道筋を考えて編集してきました。

・安井

この教科書は「子ども用の本」です。重要語句を中心に説明調で書かれている教科書は、子どもが自ら読むには不向きでした。学び舎教科書はそこを一新。子どもが読む、何か感じる、疑問がわいてくる、そんなことができるようにつくりました。

奈良時代も、律令制など社会のしくみの説明から入るのではなく、各地の人びとの姿を描いています。まず、ムラの産物を背負って都の平城京へ運んでいく姿が図版とともに描かれます。安房(千葉県)の女性たちは麻で布を織り、さらに海に出て、鮑をとって乾燥させ、秋になるとこれらを都に運ぶ荷物にまとめます。このような人びとの働く姿から社会のしくみに目を向けていきます。人びとの姿がこの教科書の主題です。

・山田

歴史を身近に感じ、自分につながる歴史を学べるように、教科書には子どもが多く登場しますね。

・楢崎

2025 年度版では、日本列島の歴史を学ぶ始まりのページで、メイン図版も本文も野尻湖発掘に関わった子どもたちを主人公としました。調査団があきらめかけた最終日に、ナウマンゾウの骨を発見して歴史の扉を開いたのは中学生でした。原始・古代の学習では、子どもたちが遺物や遺跡に接して考古学者のような気持になって時代のイメージを描けるよう工夫しています。各時代で、子どもが、働き、学ぶ姿を描いています。また、現在、戦争が起きている国や地域の子どもの犠牲が伝えられていますが、教科書では、戦争で子どもが担わされた役割なども詳しく記述し、戦争と平和についての考えを深められるようにしています。

・山田

女性が歴史の主体として描かれていることも、教科書の特色です。

・鳥塚

３版では、自由民権運動を楠瀬喜多から書き起こしました。楠瀬は立志社の演説会の常連でした。納税をしているのに女性というだけで投票ができないのはおかしいと考え、わざと税を滞納しました。そして税を督促された時に、男女平等について問いただす文を県に提出しました。女性も男性も力を合わせたたかいは高知の上町町会で実を結びます。町会議員が県と粘り強く交渉した結果、1880 年に世界に先んじて女性参政権が実現するのです。植木枝盛はこれを『高知新聞』

で知らせ、男女同権の国会をよびかけました。しかし、上町などの女性参政権は 1884 年の法改正によって廃止されてしまいます。この結末は子どもたちをゆさぶります。なぜ廃止されたのか、その後どうなっていくのか、ここで生まれた問いを深められるように、教科書では、その後の歴史も女性の視点で叙述しています。

・山田

学び舎教科書は、執筆者の徹底した教材研究をもとに討論を重ねて編集しています。また、さまざまな授業づくりの研究会で深めた経験が土台にあります。その一つに日韓の教師たちの授業実践交流会があり、教科書の東アジアの視点を豊かなものにしています。

・三橋

３版では朝鮮通信使の図版を『朝鮮通信使歓待図』にしました。この絵は、1655 年の四代将軍家綱の襲職祝賀を目的とした通信使のようすを描いた作品です。華やかな朝鮮人の登城行列が、町人地の大店や路地の見物人を楽しませています。朝鮮国王の国書を載せた厨子の後を正使が乗る輿が続きます。家光が急死した後、11 歳の家綱が将軍職を継ぎましたが、由井正雪事件をはじめ幕府の存続を脅かす事件が相次いでいました。このような時期に、通信使の「来朝」を利用して幕府の威光が異国の王に認められ、その王が「朝貢」の使節を送ってきたと、特に朝廷に誇示したものと考えられています。子どもが興味をもって観察ができる図版から入り、朝鮮、幕府、民衆の側から通信使について考えられるようにしています。

・山田

高校の歴史総合は、日本と世界のつながりを重視し、生徒が主体的に学ぶことをめざしています。この方向と学び舎教科書の特色が重なるという声を聞きます。

・髙嶋

９章 (14) にんげんをかえせー原爆投下―では、まず、原爆の残虐さと放射能による後遺症の苦しみを、実感できる記述です。その上で、側注の「被爆した外国人」に注目。「なぜ、こんなに外国人がいたのか」を国別に問えば、日清戦争以来のアジア侵略と植民地政策を俯瞰できるでしょう。また、囲みの「アメリカが原爆を投下した理由」では「原爆は正当化できるのか」「ソ連参戦にはアメリカとの約束があったのは、なぜ」と探究したくなる。ヤルタ協定を学べば、北方領土問題の背景にも気づく教材になります。

・山田

ウクライナやパレスチナの戦火が止まず、かつてないほど国際秩序が崩れています。こうした中での教育、歴史教科書の課題をどう考えればよいでしょうか。

・千葉

希望する先生に配信している「学ぶ会」発行のメールマガジン最新号に「兵器を考える」を書きました。様々な視点から兵器について子どもたちが考えるものです。兵器がなければ戦争はできません。戦争の表層でなく根源に目を向けていく学習が大切です。

学び舎教科書では、９章と 10 章に多くのページをあてて、戦争について記述しています。ウクライナとパレスチナについても、なぜこのような惨禍が起きているのか、歴史をたどって考えられるようにしています。

・山田

本編最終ページは感染症をテーマにしました。第一次世界大戦中に発生し空前の死者を出した 1918 年のインフルエンザは、戦争が拡大させたといえます。一方、天然痘は、冷戦の中でも米ソはじめ各国が協力して根絶宣言を出すことができました。ここから学ぶことは多いです。学び舎教科書が、現代の課題について歴史をさかのぼって解きほぐし、子どもたちの学びの力を未来につなぐことを願っています。